

## 一口メモ

漢方製剤には医療用、一般用、配置用がある。病院やクリニックで医師が処方する医療用は約150種類あり、健康保険が適用される。富山大附属病院和漢診療科では、保険適用されている約200種類の生薬（煎じ薬）を使った診療も行っている。

# 知りたい！ 治療の最前線

◇33

## 和漢診療

西洋医学が進歩した現代においても、心身の不調が解消されず、思い悩む人は少なくありません。日本の伝統医学である漢方は長い歴史の中で蓄積された「経験知」に基づき、西洋医学とは異なるアプローチで治療します。漢方が得意とする症状、病気を期待される役割、私たちの科が行っている和漢診療について解説します。

# 漢方と西洋医学 融合



嶋田 豊

富山大附属病院和漢診療科  
教授・診療科長

和漢診療科は、東洋医学・漢方と西洋医学を融合した診療を行っています。必要に応じて、血液検査やレントゲン検査など西洋医学の検査や治療を取り入れ、他科と連携しながら診療に当たっています。

診療対象となる病気はさまざまです。消化器や呼吸器、循環器、リウマチ・膠原病、糖尿病などの内科系疾患、皮膚科や婦人科、耳鼻咽喉科、

精神科、疼痛性の疾患など多岐にわたります。西洋医学で顕著な効果がみられない場合、漢方薬を使用すると症状が改善する場合があります。例えば、冷え性や虚弱体質、こむらがえりなどです。また、風邪や頭痛、便秘、生理痛といった一般的な病気

もありです。内科領域ではがん治療に伴う食欲不振など副作用の軽減、外科領域では術後の腸閉塞予防、治療に用いられています。

「認知症患者に効果」  
漢方の科学的な研究が進み、エビデンス（科学的な根拠）が明らかになってきました。臨床試験で漢方薬の効果が裏付けられた病気の一つに「機能性ディスペプシア」があります。この病気は内視鏡

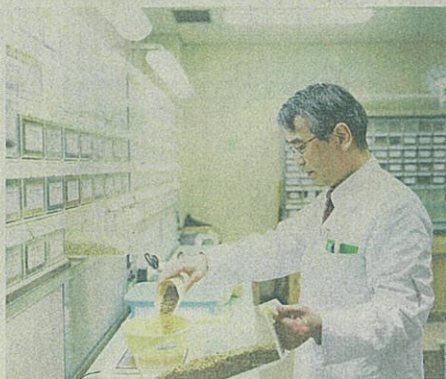
## さまざまな疾患が対象

検査で異常がないのに、胃もたれやみぞおちの痛みがみられることも多いです。このほか、認知症の患者さんにも

れが特徴です。必要以上に多くの薬を併用しているため、副作用が生じる可能性が高いといわれています。漢方薬をうまく使うことで、薬の数を減らすことが期待されます。

近年、医療用の漢方製剤が普及し、一般の医師も漢方薬を処方することが増えてきました。注意したいのが、複数の病院やクリニックから漢方薬が処方されているケースです。

このような場合は副作用を防ぐためにも、なるべく漢方の知識が豊富な専門医に処方してもらいたいことをお勧めします。



東洋医学（漢方）が得意とする症状や病気

- 冷え性、虚弱体質、こむらがえりなど
- 風邪、頭痛、便秘、生理痛など
- ストレスによる不調、更年期障害など
- 術後の腸閉塞予防、治療など

漢方薬（生薬）を調剤している様子

富山大附属病院薬劑部

次回は3日に掲載します。